

# 大豆情報

No. 1

山本地域振興局農業振興普及課

Tel 0185-52-1241

Fax 0185-54-8001

## 良質大豆生産にむけて排水対策の徹底を！



大豆の収量・品質向上のポイントは

### 1 地力向上 2 排水対策 3 出芽苗立の確保 4 雑草対策

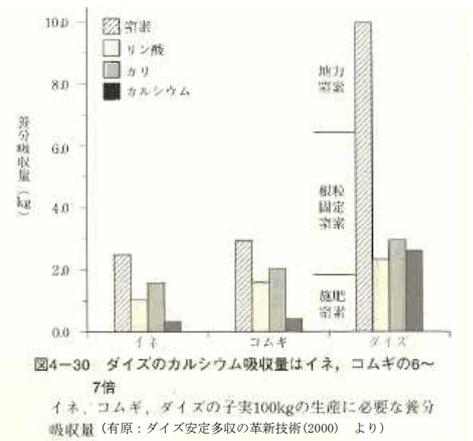
にあります。それぞれの対策については下記を参照してください。

## 1 地力向上

### 1) 土作り

大豆の最適pHは6.0～6.5です。pHが低いと早期落葉、小粒化、低収量の傾向があるので水田転換畑（pH5.5前後）などでは石灰質肥料等で矯正してください。苦土石灰であれば100kg/10aが投入量の目安です。

大豆は地力窒素を多く消費するので（右図参照）、連作ほ場では地力維持のための堆肥等の連用が効果的です。投入量の目安は完熟牛糞堆肥で2t/10a程度です。なお、未熟な堆肥はタネバエの多発を招くので避けてください。



### 2) 基肥

根粒が活動するまでに大豆の体を大きくするために、基肥として連作ほ場では窒素を2～3kg/10a、転換1～2年の畑では1kg/10a程度施用します。ただし基肥を与えすぎると過繁茂や根粒活性の低下につながります。

## 2 排水対策

出芽不良の原因は種子周辺の酸素不足です。酸素不足で出芽した大豆は生育期間中も生育が劣り、最終的には減収します。これを回避するためにも、右図を参考にほ場の排水対策を十分に行ってください。

排水促進のため額縁明きよは、必ずほ場外の排水路につなげてください。

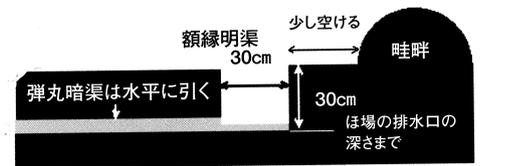


図1 額縁明渠の断面図

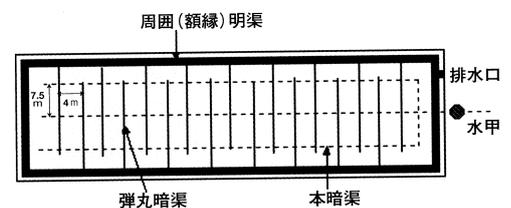


図2 ほ場全体の配置

### 3 出芽苗立ちの確保

#### 1) 種子予借

播種前に紫斑病・ネキリムシ類・タネバエなどの被害回避のために種子消毒をすると効果的です。なお、ハトなどの鳥害回避に使用するキヒゲン・キヒゲンR-2フロアブルにはチウラムが含まれているので、チウラムを含むベンレートT水和剤・ホーマイ水和剤などとの併用はできません。

なお、クルーザーMAXXは鳥害（ハト・キジバト）に対して忌避効果があります。

種子消毒用薬剤一覧

農薬名	希釈又は散布使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	総※使用回数	茎疫	黒根腐病	紫斑病	タネバエ	ネキリムシ類	ハタスジヒメ
ベンレートT水和剤 20	乾燥種子重量の0.2~0.4%	種子衣	は種前	1	ウエ			○			
ホーマイ水和剤	種子重量の0.5%	種子衣	は種前	1	アウ			○			
クルーザー MAXX	原液 乾燥種子1kg当り8mL	塗沫	は種前	1	イオカ	○	○	○	○	○	○
クルーザー FS 30	乾燥種子1kg当り原液6mL	塗沫	は種前	1	オ				○	○	○

ア：チオファネートメチル(4回以内(種子への処理は1回以内))、イ：フルジオキシソニル(1回)

ウ：チウラム(1回)、エ：ベノミル(5回以内(種子粉衣は1回以内、播種後は4回以内))

オ：チアマトキサム(3回以内(播種前の塗沫処理は1回以内、播種後は2回以内))

カ：メタラキシルM(4回以内(種子粉衣および播種前の塗沫処理は合計1回以内、播種後は3回以内))

表 播種時期ごとの目標播種量と畝間・株間の設定の目安

播種時期	播種粒数 (粒/10a)	播種量 (kg/10a)	畝間 (cm)	株間 (cm)
5月下旬 ~6月上旬	13,300 ~16,800	4.0~5.0	75 70	16~20 17~21
6月中旬	17,800 ~22,200	5.3~6.6	75 70 65	12~15 13~16 14~17
6月下旬 ~7月上旬	25,000 ~33,300	7.5~10	75 70 65	10 10~12 10~12

#### 2) 播種

リュウホウの播種適期は6月上~中旬頃で、目標とする播種量は5kg/10a前後です。

播種時の深さは3cmを目標としますが、ほ場が乾燥しているときはやや深め(4cm)に播くと出芽のそろいがよくなります。

土壌散布用薬剤一覧

農薬名	希釈又は散布使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	総※使用回数	タネバエ	ネキリムシ類
カルホス粉剤	4~6kg/10a	条用土混和	は種時	1	ア	○	
	4kg/10a	土壌表面散布	は種時又は定植時	2			○
カルホス微粒剤 F	6kg/10a	*1	は種時	2	ア	○	○
ダイアジノン粒剤 3	5~9kg/10a	土混和	は種時	1	イ	○	
ネキリトン K	3kg/10a	*2	は種時~本薬2葉期	2	ア		○

ア：イソキサチオン(2回以内)

イ：ダイアジノン(6回以内(種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内(生育期の処理は4回以内)))

\*1：土壌表面散布土混和処理

\*2：土壌表面株元処理

#### 3) 虫害対策

ネキリムシ類などによる突発的な被害が発生することがありますので、種子予借をしなかった場合は、耕種的防除や薬剤散布で被害を回避してください。

##### ①ネキリムシ類

##### 〈耕種的防除〉

飛来性の害虫です。広葉雑草に産卵するため、ほ場内外に雑草が多いと被害が大きくなるので、播種前に雑草処理を行います。

②タネバエ

〈耕種的防除〉

成虫が未熟有機物に誘引されるので、堆肥を施用する際は完熟したものを用います。

## 4 雑草対策

雑草対策は大豆の生育を促し、大豆では場全体を覆い、雑草の発生を抑制させることがポイントです。上記1)～3)の対策を徹底するとともに、除草剤＋中耕の二段構えで対策を組み立ててください。

### ・除草体系図

